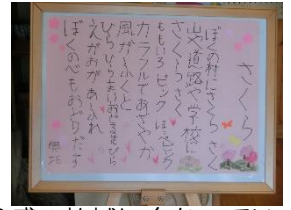


実践力を身に付けた児童の育成

～ 主体的・能動的に課題に取り組む言語活動の充実を図る授業づくり ～

今帰仁村立兼次小学校の與那嶺校長から一報の電話が入る。主体的・対話的学びを目指してきた今年度の振り返りと次年度へ向けてのアドバイスをお願いしたいとのこと。講師依頼の文章といっしょに與那嶺校長が先生方にアンケートし書きとめられた本年度の成果と課題と一緒に綴られていた。校長の本気さがうかがえる。新学習指導要領の具現化に向けて、一番困っているのは正直言って大人である教師達である。



「主体的学びって何？対話的学びって？ 深い学びって？」「対話と発表のちがいは？ 教え合い・話し合い・学び合いのちがいは？」與那嶺校長は本気で教師達の困り感の払拭に向かっている、幸せなのは間違いなく職員と子ども達である。文科省は新学習指導要領の目玉は「授業改善である」と明確に言及した。学校におけるすべての教育活動を「主体的・対話的、深い学び」の実現を通して具現化を図ってください。と、総則のページで示した。左写真、教師の学びの機会を提供し一緒に語る校長先生。右上写真、本館入り口事務室の前に飾られていた特別支援の子が書いた『詩』である。ささいなことが大切にされている学校の子も達は幸せである。文字や文もアートの粋を感じた。



職員も、子ども達も、決して一人にしない「わからない？」「教えて」と依存できる授業づくりの準備が淡々と進行する。

【特別支援学級】 知的と肢体不自由の2クラス。



この子達にとって幸福な学校生活って何だろう？ 様々な困難を抱えているこの子らに多様な対応が必要とされる。普通やあたりまえと違う個性を持った一人ひとりの子にとって最良の幸福を追究させていきたいものである。



私たちは教師である。ヘレンケラー物語「奇跡の人」とはヘレンではなくサリバン先生のことであることを確認しておきたい。

私が参観中、みんな素敵な笑みを浮かべて教師と語っていた。教師の笑顔の対応が鏡になって子ども達の表情になる。この子達の笑顔を兼次小のバロメータにしたい。この子達の表情が決して崩れないようにサリバン先生を目指した教師の頑張りに期待する。和やかな教室の空気に私も癒されました。感謝！

【1年生教室】 「主体的・対話的」が教えられなかった自分たちがある。



文科省は日常授業における一斉指導的授業の排除を目指している。なぜ？提言の背景が大切であるがここで触れると長くなるので次回に…

しかし、「私たちのこれまでの教師生活や授業経験値にはなかった。」が

本音（事実）である。イノベーション、変革、改革等様々な言葉で2050年へ向けてが話題となる。学校教育も来る2050年に向けて「変わっていかねばならない時代が来た」のである。これまでの授業が否定されるということではない。教師達が間違っていたのではない、新しい時代に向かうこの子達のために、学校の授業のあり方も変革の時代に向かわなければならない時代なのである。



写真、「1年生は難しい」よく耳にする言葉であるが否定はできない。この教室では学習規律や態度がしっかり躰されている。授業者は取りこぼしのないように、一人ひとりの子どもへ支援（ケア）の手をのべる。子ども達の困り感に寄り添う教師の姿勢がうれしい。

【2年教室】 行為や形には、必ず「目的」や「意義」がある。



教師が座って授業している？国頭村の学校では見慣れた風景ではあるが、まだまだ、座ることに違和感を感じる教師がほとんどである。さて、大切なことは、なぜ教師が座ったり、コの字型に配置したり、ペアやグループを設定するのだろうか。その目的や意義が教師達の中でしっかり共有されないと最終的に困るのは子ども達であることを覚えておきたい。T先生あなたはなぜ座っているのですか？その目的は？意義は？



[3年 理科]：磁石が真ん中から折れたら、S極、N極はどうなりますか？

素晴らしい課題（タスク）、授業者は何の迷いもなくテーブルごとのペアやグループでの対話に下ろした。

下の写真、対話的学びが成立している状況である。「分からないを訊く」「なぜを問う」、仲間の「問い」をみんなで「きき合う（吟味）」である。違いをきき合う、同じ理由をきき合う。仲間の発言から多様な見方や考え方を学ぶ「学び」は一人ひとりの個の中にある。研究者によっては対話の中により多くの個の学びが出現すると言い切る研究者もいる。課題を子ども達にあずけた授業者に拍手！



[4年] しっとりとした教師はすべての子が安心できる。

グループ活動であるがなんとなく全体がコの字に構えられている。教師の目が全体に行き届き子ども達の表情が確認しやすい。さらに必要に応じたケアの対応が敏速に行える。



この教室の空気がとってもいい、

教師の穏やかな言葉と、子どもたちの活動を見守る姿が印象的だった。教師が出すぎると教師依存が強くなって、「先生！先生！」とハイな教室になり静かな子ども達が埋もれてしまう危険性が発生する。さらに自分たちの考え（創造性）が欠落されてしまうことも起こりうる。（教師のさせたい事）⇒（主体性の欠如）

2枚の写真、教師の絶妙な距離感がある。近すぎてもダメ、遠すぎてもダメ、「大丈夫よ頑張ってください」子ども達を励まし見守る姿勢を示した距離感が大切である。

[5年 算数] 教えるべきところはしっかり教える。あずけるところは子どもを信じてあずけてみる。



写真左、まじめで丁寧な教師であることが一目瞭然である。六角形の書き方の模範となる。教師の後ろ姿から学んでいる子どもたちの視線を感じたい。ここではどうしても子ども達は聞かされて、見せられての受動的な一斉指導の受け身になる。一方右の写真、コンパスでの書き方を仲間と模索しながら自分たちで解決しようとしている姿である。つまり主体的探求型の授業風景である。



算数では何でもかんでも子ども達にあずければいいということではない。

[教師の側から整理と確認が必要とされる事柄]

- ・ 公式の意味の理解…公式成立のプロセスの理解
- ・ 定義や条件…図形の領域。（数学は定義と条件に支配される）
- ・ 計算の決まりや法則…合理的な計算の追求
- ・ 重要語句（算数用語）など新しい言語の指導の確認



この教室も実にしっとりとした和やかな空気がある。授業者の丁寧さが子ども達の安心を確信させているのではないかと考える。教室は職員室の鏡、子ども達の表情は教師の鏡です。子どもの表情を常に気にかけながら一人残らずすべての子が安心して参加できる授業づくりに向かってください。素敵な授業ありがとうございます！

[焦点授業] 5年理科「水溶液の性質」：解けたミョウバンを取り出す。



3学期のこの時期に授業を公開し、同僚に学びのネタを提供する授業者に敬意と感謝の気持ちを表したい（評したい）。

教師も子ども達と一緒に、同僚の授業から学ぶのです。見て学び、研究協議会の対話から学ぶのです。大切なことは、授業公開者に感謝と敬意を抱き謙虚に学ばせてもらう参観者の意識が大切です。参観された先生方へ「本日の授業からのあなたの



学びはなんですか？」…すべての教師のベクトルをそろえると子どもたちが安心します。

兼次小の皆さん素敵な授業公開ありがとうございました。4月からも與那嶺校長の舵取りの基「主体的・対話的深い学び」の実現に向けて挑戦しつづけてください。本日はありがとうございました。

『挑戦』へ向かう兼次小の先生方へ、サリバン先生の言葉から2つ紹介させていただきます。

☆『失敗したらやり直せばいいの、そのたびにあなたは強くなれるから。』

☆『どんなささやかな成功も、他人の目に触れない挫折や苦難の道を経てるものなの。』

国頭学びの会ゆい